

屋頭ニ墮雷獸アリ、渠即コレヲ捕獲、煮テ食スト、然バ雷獸ハ無毒ノモノト見エタリ、  
〔本草綱目譯義五十一〕木狗クロンボウ

備中土佐ニアリ、犬ノ形ノ大サニ似タリ、足ツヨシ、木ヲノボリ壁ヲノボル、紅毛人ノツレテクル  
クロンボウトハチガウ也、黒キ故名ク、集ニ元世祖有足疾、取以爲袴、人遂貴重之、此所前未聞云々、

然レドモ、便覽ニ始皇取皮爲補愈、足疾云々、之ヲミレバ、元ヨリ以前ニアリトミユ、

〔紀伊國續風土記物産十下〕木狗本草、俗ニ雷獸といふ、大抵形小狗の如し、體細く、尾長く、全身黒  
にして飛走甚疾し、天氣陰晦し、又風雨の時  
は其勢益烈し、其糞香ありて麝香の如し、

先年より高野山奥及在田郡山保田庄山中にて捕へ獲る事間あり、日高牟婁兩郡の山中にも  
亦あるべし、土佐には他色のものを産すといふ、いまだ見當らず、

河童

〔書言字考節用集五〕水虎カハツ、如時珍云、如三四、歲小兒、甲川童又云、川類カハラ、所變者、常

〔物類稱呼二〕物川童がはたらう、畿内及九州にて、がはたらう、又川のとの、又川童カハツとよぶ、九州に

柳川尤多、周防及石見又四國にて、えんこうといふ、

土佐の土民はぐはたらう、又かだらう、又えんこうともいふ、其手の肱よく左右に通り返けて  
滑なり、猿猴に似たるが故に、河太郎もえんこうといふ、

東國にかつばと云、川をしかるにもかつばともいふ、越中にて、がはらと云、伊勢の白子にて、がは  
ら小僧といふ、

其かたち四五歳ばかりのわらはのごとく、かしらの毛赤うして、頂に凹なるさら有水をたく  
はふる時は、力はなはだつよし、性相撲を好み、人をして水中に引入んとす、或は恠をなして婦  
女を姦姦す、其わざはひを避るには、猿を飼にしかずとなん、

〔和漢三才圖會四十〕水虎本草、此非蟲類、今改出于恠類、